

令和5年度 延岡市立熊野江小学校 学校関係者評価書

【学校経営ビジョン】

「自ら学び 心豊かに たくましく生きる児童の育成」を目指し、確かな学力の向上、心の教育の充実、健康・体力の向上、特色ある学校づくりの取組を積極的に推進する。

4段階評価 「4」：期待を上回る 「3」：ほぼ期待通り 「2」：やや期待を下回る 「1」：改善を要する

観点	評価項目(手立て・ゴールイメージ)	評価				成果と課題	改善策	学校運営協議会委員		総合評価
		児童	保護者	協働	職員			委員	意見	
教育目標	1 学校の教育方針等の理解・啓発 (学校だより、懇談会、学校運営協議会等)	3.8	3.3	3.2	2.8	○ 学校行事等で集まる際によく説明していることが、学校の教育方針の理解につながっている。 ● 学校と地域が共通理解をし、同じ方向を目指して協働することに努めていきたい。	☆ 機会あるごとに教育方針を明確に伝えていくことに努める。 ☆ 学校行事やコミュニティ・スクールの機能を生かして、理解・啓発を図っていく。	3.1	○ 教育方針についての理解は、十分にはできなかったため、くり返し伝えていく工夫が必要である。	3
学力の向上	2 ICT活用等による分かる授業の工夫 (ICT活用、学習のめあてとまとめ)	4.0	3.5	3.2	3.2	○ ICTを積極的に活用し、少人数を生かした丁寧な指導を行っている。単元テストに成果が現れており、児童も学力の向上を実感している。 ● 少人数で、他からの学習に関する啓発がないため、モチベーションを高め持続することが難しい。	☆ ICTの活用について、さらに効果的な活用を工夫していく。 ☆ 少人数の利点を生かし、驚きのある楽しい体験と丁寧な指導を織り交ぜながら、学習へのモチベーションを高めていく。	3.4	○ ICTを活用し、他の小学校とつなげて集団の授業ができるよ。教科によって思考の練り上げができると思います。 ○ 少人数のよさを生かし、先生の話をしっかり聞いて学力をつけてほしい。 ○ 児童と教員の距離が近いので、個別指導やフォローがしやすいと思う。学校間の連携やネットワークの構築により教育活動の充実を図る必要がある。 ○ 教育内容や方法が偏りやすいが、大学や専門家との連携により教育内容や方法の高度化や多様化を図ることができると思う。	3
	3 個に応じたきめ細かな指導の推進 (毎月の継続した取組、課題の見届け、作文指導)	3.8	3.3	3.7	3.2			3.5		
	4 学力の定着と向上 (百ます計算、課題のやり直し、学びの定着)	3.5	3.0	3.7	3.3			3.4		
心の教育の充実	5 自己肯定感と意欲的な取組 (良さや頑張りの賞賛、行事の役割分担)	3.5	3.5	3.5	3.3	○ 褒めて伸ばすことを実践し、児童も自信とやる気を持ち、楽しんで取り組んでいることが、児童のさまざまな活動の様子からうかがえる。 ○ 毎月のアンケートと教育相談により、いつでも相談しやすい雰囲気作りを努めることができた。 ● 相手への思いやりの気持ちや周りへの感謝を言葉で伝えることがもう少しである。	☆ 児童によりその見守ることで、褒める場面を逃さないようにし、継続的に児童の自信とやる気、楽しさを感じさせるようにしていく。 ☆ 毎月のアンケートと教育相談を継続していく。 ☆ 地域の方との活動の機会を大切にし、思いやりや感謝の気持ちをもたせることにつなげていきたい。	3.3	○ 自分に自信をもち、何事にも進んで取り組む子ども達になってほしい。 ○ 釣りなどの熊野江ならではの活動に取り組み、自分の好きなことを見つけて楽しんでほしい。 ○ 地域の人にていねいな言葉遣いができ、あいさつする姿が見られる。 ○ 相手よりも先にあいさつができる子ども達になってほしい。 ○ 地域の人材の生かし、交流を深めながら思いやりの心を育ててほしい。 ○ 児童同士の絆が強く、仲間意識や協調性が育まれると思う。	3
	6 相談しやすい環境作り (学校生活アンケート、教育相談)	3.5	3.3	3.2	3.2			3.3		
	7 思いやりや感謝の心の育成 (栽培活動、地域清掃等の奉仕活動)	4.0	3.5	3.5	3.2			3.4		
健康・体力の向上	8 基本的な生活習慣の定着 (早寝・早起き・朝ご飯の取組、歯磨き指導)	3.8	3.0	3.2	2.8	○ 家庭と連携を取りながら、早寝早起きの啓発を行い、児童は元気に登校することができた。 ○ 外遊びを職員も一緒に行うことで、運動に親しみ、体力テストでは体力賞を取る児童もいた。 ● ゲームやテレビなどの時間を制限できず、睡眠不足で授業に集中できない様子が見られた。	☆ 健康的な生活習慣の確立については、学級担任だけでなく養護教諭とも連携して、啓発を図っていく。 ☆ ゲームやテレビ、スマホ・パソコン等のICTの活用について利点と弊害を指導していくとともに、家庭へも啓発していく。	3.1	○ 他校との交流の中で、基本的なルールを守るなどの規範意識をもてる活動を増やしてほしい。また、スポーツ活動を通してルールの大事さを学ぶとともに、体力向上につなげてほしい。 ○ 放課後子ども教室では、外遊びをよくしていて元気に動いている。	3
	9 自他の命を大切にすることの育成 (命に関する授業、定期的な避難訓練)	3.5	3.3	3.2	3.2			3.4		
	10 運動に親しむ態度の育成 (昼休みや元気タイムの外遊び、持久走大会)	4.0	3.3	3.0	3.5			3.3		
特色ある学校づくり	11 交流学習の充実 (はらはらわくわく体験隊の活動、近隣学校との合同学習)	3.8	3.8	3.7	3.5	○ 他校の児童と会話したり、代表として意見を発表したりする姿が見られ、社会性を高めることができた。	☆ 今後も近隣校と積極的に交流学習を進め、はらわく活動にめあてをもって参加し、児童の成長を図りたい。 ☆ 情報発信を継続し、地域の方に親しんでもらえる学校づくりに努める。 ☆ グランドゴルフ、学校園の花づくり、地域清掃、避難訓練等、地域と協働して行う取組を工夫・充実し、学校も地域も元気になるように努める。	3.9	○ 小さな学校ではなかなかできない体験をすることができる『はらはらわくわくふるさと体験隊』に参加されたことを大変有り難いと思います。いろいろな子供たちと遊んだり、勉強したり、話をしたりすることがどれだけ良い勉強になるかわかりません。子供たちの今後にもそのすべい力になると思います。ありがとうございます。 ○ 毎月の学校便りや学校行事や子どもたちの様子がうかがえます。今後も情報発信をお願い致します。 ○ 地域の人たち、行事と密接につながってほしい。地域と学校がお互いをより活用しあってほしい。 ○ 子ども達と地域との交流が定期的にできるように交流活動を増やすなどの工夫を考えたい。 ○ 合同避難訓練で地域の人が集まるので、その際に何か活動ができないうらうか。 ○ 地域資源や人材を活用し、地域に根ざした教育活動を展開してほしい。地域との連携を密にし、地域の歴史や文化に触れる機会も多くなるとよいと思う。	3
	12 学校便りやHPでの情報発信 (学校の取組や児童の様子)	3.5	3.3	3.2	3.3	○ 学級通信、ホームページ、学校便り、はらわく通信により、子どもたちのがんばりを地域や家庭にタイムリーに情報発信することができた。 ● さらに地域と連携した取組を地域の方と一緒に考え、推進していく必要がある。		3.9		
	13 PTA・地域との連携 (保護者や地域の意見、連携)	3.5	3.5	3.7	3.0			3.8		